

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					26 年度	B
	重み付け	☐ 客観指標	a	☒ 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 観光客だけでなく市民にとっても満足度の高い観光振興を図ることを目的としており、市民生活 実感評価を重視して評価することが妥当であると考えため						26 年度	B
(原因分析) 【客観指標】●コンベンションは数年前に開催が決定するため、平成26年の世界で開催されたコン ベンションは、リーマンショック以後の世界経済不況の余波のほか、途上国での開催の減少が 要因となり、前年比180件減少した。日本国内においても開催件数が5件減少する中で、平成25 年よりもコンベンション世界順位が上昇したため、a評価となった。 ●コンベンション参加者数については、誘致スタッフの強化や、広報ツールの拡充、大学関係者 への積極的な支援や働きかけにより、b→a評価に改善した。 【市民の実感】京都の国際MICE都市としてのイメージが市民の方々に定着しつつあるため、昨年 度に引き続きb評価になったものと考えられる。						25 年度	B

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		27年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		26年度 決算額	27年度 予算額		
1	コンベンション等MICE推進事業	62,243	81,335	良い	産業観光局
2	グローバルMICE戦略都市としてのマーケティング戦略推進事業	13,039	9,231	良い	産業観光局
3	国立京都国際会館の拡充整備	21,526	9,993	—	総合企画局
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

●平成26年10月に策定した「京都市MICE戦略2020」に基づき、京都文化交流コンベンションビュー
ローと連携のうえ、京都の多様な魅力を活用しながら、開催支援メニューの充実、産学公連携の強化
など、主催者が京都を選択しやすい環境を整えることで、京都にふさわしいMICE誘致の強化を図る。

施策名	0903	国際MICE都市～国際会議、企業研修旅行、イベント等による国際集客都市～への飛躍				
指標名	コンベンション開催件数の世界順位（位）					
担当課	観光MICE推進室		連絡先	7 4 6－2 2 5 5		
1 指標の説明						
1年間に京都市域内で開催された会議で、日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議件数の世界順位						
2 指標の意味						
経済、文化、国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標						
3 算出方法・出典等						
出典：国際会議協会（I C C A）「国際会議開催統計」						
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	25年度	26年度		数値	根拠	達成度
数値	55	54	1位上昇	52	平成25年実績（55位）と平成32年度目標値から各年度の目標を等差的に設定（年2.86順位上昇）	96.2%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		35	32年度	45.7%	京都市MICE戦略2020	
5 評価基準						
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満						
6 基準説明						
当該指標については、民間部門の寄与度が比較的高いことや景気動向にも影響を受けるため、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。						
7 評価結果						
252627						
- - a						

指標名	コンベンション参加者数（人）					
担当課	観光MICE推進室		連絡先	7 4 6－2 2 5 5		
1 指標の説明						
1年間に京都市域内で開催された会議で、日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議に参加した人数						
2 指標の意味						
経済、文化、国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標						
3 算出方法・出典等						
出典：京都文化交流コンベンションビューロー「京都開催の国際会議」、日本政府観光局（J N T O）「国際会議統計」						
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	25年	26年		数値	根拠	達成度
数値	96,020	128,173	32,153人増	114,257	過去5年間の最高値	112.2%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						
5 評価基準						
最新の数値が過去5年間の a：最高以上 b：上中間値（最高値と平均値の中間値）以上～最高値未満 c：平均値以上～上中間値未満 d：下中間値（平均値と最低値の中間値）以上～平均値未満 e：下中間値未満						
6 基準説明						
各年度の具体的な数値目標の設定が困難であるため、過去5年間の数値の推移で評価する。 最高値 114,257人（平成24年） 平均値 101,932人 最低値 84,391人（平成23年）						
7 評価結果						
252627						
a d a						

施策名	0903	国際MICE都市～国際会議，企業研修旅行，イベント等による国際集客都市～への飛躍				
指標名	コンベンション外国人参加者比率の国内順位（位）					
担当課	観光MICE推進室		連絡先	7 4 6－2 2 5 5		
1 指標の説明						
1年間に京都市域内で開催された会議で，日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議に参加した外国人比率の国内主要都市（グローバルMICE戦略都市及び強化都市7都市）順位1位の堅持						
2 指標の意味						
経済，文化，国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標						
3 算出方法・出典等						
出典：日本政府観光局（J N T O）「国際会議統計」						
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	25年	26年		数値	根拠	達成度
数値	-	-	-	-	国内主要都市順位1位の堅持	-
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		1	32年度	-	京都市MICE戦略2020	
5 評価基準						
最新数値が a：1位 b：2位 c：3位 d：4位 e：5位以下			6 基準説明 当該指標については，民間部門の寄与度が比較的高く，景気動向にも影響を受けるものの，目標を上回することは不可能ではないため，1位をaとし，以下， bを2位 cを3位 dを4位 eを5位以下とする。			
7 評価結果						
25		26		27		
-		-		-		